



かながわ大会開催に向けて最大風速へ！



大会長 水野 茂樹

第67回公益社団法人日本医療社会福祉協会全国大会(かながわ大会)の開催まで、2か月を切った。ここまで応援していただいた方々、準備に携わっていただいた方々、関心を持っていただいたすべての方々に感謝を申し上げたい。

私が全国大会開催を意識するようになったのは、6年前の大阪大会の頃で、当時、私は当協会副会長の職にあり、先輩方、日本医療社会福祉協会の理事をしている友人等から、「神奈川で全国大会は行わないのか？」という声を耳にするようになっていた。しかし、神奈川で全国大会を行うことができるのか、その力を見定めていく必要があると考えていた。その後、2014年の設立60周年記念事業、2016年の一般社団法人化を経て、当協会の勢いや実行力を信じるようになった。また、私も会長職に就き、責任を負える立場になっていた。

2016年9月2日は、記念すべき日である。この日の“平成28年度第4回理事会”にて、2019年に全国大会を神奈川にて開催することを提案し、出席理事全員賛成のもと承認された。あの時の高揚感は今でも記憶に残っている。

当協会の目的に「保健・医療・福祉分野におけるソーシャルワークの発展」「会員の資質の向上と地位の確立を図る」という文言がある。また、私が理事を務めるなかで常に意識してきたことのひとつに「会員がさまざまなかたちで協会活動に参加する」ということがある。27年ぶりに神奈川で全国大会を開催するというに価値を置く方も多いかもかもしれないが、私は記念すべきイベントとして捉えるのではなく、全国大会を神奈川で開催することで、神奈川の医療ソーシャルワーカーの資質をさらに向上させ、合わせて社会的認知を高めて業務をしやすくすること、神奈川の医療ソーシャルワーカーのつながりを強くし、協会活動を活性化していくことに重きを置いてきた。

そのための仕掛けとして、プロジェクトチーム方式の導入、全国大会に向けた目標数値の設定を行った。プロジェクトチームは公募をしつつ、どうしても参加して欲しい方々には声を掛けさせていただいた。この中には、非会員の方もあった。職能団体として、神奈川の医療ソーシャルワーカーを代表する活動を行っている以上、協会活動を非会員の方々にも伝えていくことは課題である。また、会議に参加できなくても、意見交換ができる仕組みも導入した。こうして、プロジェクトチームは総勢25名となった。理事の募集もこの2年において私自身も案内を作成し、声掛けを行い、当協会における史上最多の20名となった。

すでに、演題応募の締切りは終わり、目標のひとつである「神奈川からの発表数12演題以上」についてはフタを開けるだけになっているが、もうひとつの目標の「参加者数1,200名以上」はこれから追い込みである。県内外への広報活動は、プロジェクトチーム広報部を中心に行ってきたが、広報とは単に情報を伝えることではなく、心に残るものを創りあげるといふ点で、案内、ポスター等、かなりハイレベルの活動をしてきたと思う。そして、東京、埼玉、千葉、山梨、静岡の近県にも案内の配布依頼を行った。ポスターは、神奈川のほぼ全ての病院、東京・埼玉・千葉・神奈川の日本ソーシャルワーク教育学校連盟加盟校に送付、広報を依頼した。来賓には、当協会からは県知事、川崎市長、県医師会、県病院協会、県社会福祉士会、県精神保健福祉士協会に声を掛けさせていただいている。さらなる会員の参加に向けて、大会当日のスタッフ確保も含めた第2次プロジェクトメンバーの募集を提案したものの、現行メンバーで十分、不要との声に押されて実現しなかったが、会員の皆さんには参加者として、ぜひ、お越しいただきたいと思っている。

もしかすると、皆さんが現役の医療ソーシャルワーカーのうち神奈川で開催するのはこれが最後かもしれない。どうか、神奈川で全国大会を行えることを誇りに思ってもらいたい。全国から集まる医療ソーシャルワーカーで、武蔵小杉の街が溢れかえる奇跡を見に来てほしいと思っている。

質的研究って何だ？ ~質的研究と量的研究法との比較~

高瀬 昌浩

前回は、量的研究について、有意差や検定方法についてフリーソフトを用いながら、「DA PUMPのUSAが好きかどうか」などの例で分かりやすく説明されました。

そこで、今回(第2回)では、『質的研究って何だ?』というお題で、「質的研究と量的研究との比較」に着目しながら、質的研究について述べたいと思います。

質的研究とは、「意味・場・行為・文脈」といった概念を、研究材料とする研究である(竹内・水本, 2012)と言われていますが、分かりやすく言えば、数量で表現できないデータを扱う研究です。一方、数値で表させるデータを扱う研究が量的研究です。そして、質的研究は主に「仮説を立てる(仮説生成型)ために」用いられます。一方、量的研究は、仮説の検証や予測をする(仮説検証型)ために」用いられることが多いです。

また質的研究で扱われるデータは、数値ではなく、面接によって得られるナラティブのような形式の言葉(文字データ)や観察および写真や映像などのデータ(視覚データ)で、その内容や特徴は「テキスト」として記述され、分析が行われます。なお、分析方法は、KJ法(収集した言語データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて統合する)やグラウンデッド・セオリー・アプローチ(テキストをコード化しそのコードの分類と関連付けを行うことで理論化する)などの手法があります。

このように質的研究は、その名の通り「質そのもの」において把握し、科学的な手続き(①データを採取する ②一定の手続きで分析する)によって研究をすすめていきます。『科学的な手続きを必要とする』ことは、質的研究と量的研究は共通しており、「主観的判断や分析は、研究とは言えない」ことを理解しておきましょう。

ただ科学的な手続きと言っても、難しいものばかりではありません。以下は、質的研究でよく用いられる「コード化」の手順です。

1) データを収集し、テキストにする
面接や観察、事例からデータを収集し、テキストに

します。また、発言内容だけでなく、その場の状況や面談者等の表情や姿勢、態度などもテキストにします。

2) コード化

テキストから、研究目的に該当するようなテキストにチェック(マーキング、アンダーライン)をつけていき、チェックを表すようなタイトル(キーワードやテーマ)をつけていきます。このタイトルが「コード名」で、タイトルをつける作業が「コード化」です。さらに、タイトルが似た者同士をまとめる作業を「カテゴリ化」といいます。

どうですか? 作業は大変かもしれませんが、特別難しいものではありませんよね。まずは、「やってみる」ことが大切です。

最後に、「リサーチクエッション」について述べます。リサーチクエッションとは「研究の問い」のことで、研究を行う上で明らかにしたいリサーチクエッションを具体化し、明示することで、適切な研究方法を選択できるようになります。つまり、質問がOpen(仮説生成型)なら質的研究、Closed(仮説検証型)なら量的研究になります。例えば、DA PUMPのUSAの男性に対する好感度について研究したいと考えた場合、リサーチクエッションを「なぜ、男性はDA PUMPのUSAが好きなのか」と立てれば質的研究、「DA PUMPのUSAは女性より男性に好感度が高いのか?」と立てれば量的研究となります。

研究というと、難しい、面倒…とさせていただきますが、自らの実践を『科学的な手続き』によってかたちにすることは、我々実践家にとってとても大切なことだと思います。

神奈川県にはたくさんのMSW(仲間)がいます。仲間と共に「研究」ははじめませんか?

<参考文献> 竹内理・水本篤(2012)『外国語教育研究ハンドブック』, 松柏社(17章)

寺下貴美(2011)「質的研究方法論」『日本放射線技師学会雑誌』67(4), 413-417

大谷尚(2017)「質的研究とは何か」『薬学雑誌』137(6), 653-658

質的研究の特徴(量的研究との比較)

	質的研究	量的研究
研究の方向性	仮説生成型	仮説検証型
リサーチクエッション	Openクエッション	Closedクエッション
扱うデータ	テキスト(ことば)	数値
分析方法	コード化	統計処理

今夏6月の全国大会に向けて、日本医療社会福祉協会全国大会担当理事の方々と、かながわ全国大会みらいプロジェクトメンバーとの合同会議（通称「チーム会議」）が、去る1月26日（土）午後、大会会場の「川崎市コンベンションホール会議室」にて開催されました。

チーム会議では、まず神奈川県医療ソーシャルワーカー協会みなプロ各部（全体プログラム・交流会・広報・プロモーション・学術・総務）からの進捗状況の報告と、チームでの検討事案などを提案しました。

今回は、全体プログラム部から既に10本の企画が演者の方々と内容検討までに至っていること、広報部からは「ニュースペーパー」の発行状況などが報告されました。



氷川丸

次に、日本医療社会福祉協会からは大会開催要項とホームページ掲載など広報等説明の他に、学会分科会の応募状況、同協会企画のプログラム内容、広告等協賛状況と予算についての話がありました。

検討事項では、みなプロからは3つの案件がありました。全体プログラム部にまだ未確定な企画が一つあること、交流部の懇親内容に即した参加費設定のこと、そして会員の大会参加促進を図るための「託児サービス」の概要説明と広報時期の相談でした。未確定企画は継続して部会での検討

する、参加費は承認され、「託児サービス」は大会案内に記載するものの、改めて全大会プログラム確定時にホームページへの掲載も図っていくこととなりました。



みなとみらい

日本医療社会福祉協会からは、日時・時間帯での会場利用予定案が書面にて提案され、質疑など意見交換を行いました。

さらに、今回は大会内容の確定に伴い、3月以降「大会運営に必要な人員の確保」についての提案がありました。大会3日間の開会および閉会式、みなプロ企画プログラムでの講師や演者との交渉調整と当日対応に要する運営スタッフです。加えてスタッフの役割分担や動き方等も検討・確定していく必要性を共有しました。「運営スタッフのこと」は、今後、総務部を軸に、3か月後の大会に向けてみなプロとして検討と提案が急務な事項と考えます。部会活動や企画プログラムでの必要不可欠な人員は何名程度なのか等算定するとともに、みなプロメンバーのみならず理事の皆さまや、県協会会員の皆さんに対して、協力や参加のお願いと意向確認を図っていく作業も必要と考えます。

大会が間近となるこの先々、「かながわ大会を創る・担う・支える、そして参画する」県協会の仲間や協力者の支援協力があることが、日本医療社会福祉協会とのチーム強化と魅力ある大会への礎であり、誘因です。ソーシャルワーカーの皆さまの大会参加をお待ちしています。



プロモーションビデオ公開中

かながわ大会に来てね！
(PV1)



川崎を目指せ！
(PV2)

みなさん、6月8日の土曜の夜のご予定はお決まりですか？中華街に行く？パンケーキを食べる？みなとみらいに行く？

いえいえ！！8日の夜はまずは交流会へ行きましょう！！

みなさんのお手元に、既に交流会の案内チラシが届いたかと思えます。ハデなチラシなので見てくださったはず。



ここで少しでも内容をお知らせします。

まず食事についてですが、特別コーナーに神奈川県らしいメニューを用意しております。数量限定になりますのでお早めに。

もちろん神奈川のお酒もご用意します。

また、参加者みなさんが楽しんでいただけるよう、県対抗イントロクイズも予定しています。正解者のみなさまには、神奈川の名産品を賞品で用意しています。

余談ですが、私自身も全国大会に参加した時、交流会は行かない派でした。しかし、今年の香川大会の交流会に参加した時に、色々な県の方とお話ができ、同志として親睦を深める事が出来ました。今でもメール交換をしたり、困ったケースは相談をしたりする仲です。みなさんもぜひ、交流会で素敵な仲間を見つけて

ください。

また、大会のプログラムに登壇して下さった講師の先生からも参加して下さる方がいらっしゃいます。

プログラム会場では手を挙げて質問ができなくても、交流会ではお話しができるチャンスがありますよー。

分科会の発表者の方や、憧れの先輩などと交流を図る絶好のチャンスです。交流会の場で、ネットワークを広げましょう！！

交流会開催まで、みなさんが楽しんでいただける企画を日々仲間と考えていきます。ホテルは決して大きくありませんが、おもてなし精神で盛り上げていきます。

当日参加も可能です！

みなさん、ぜひ交流会へ来てください。



ダイバーシティかながわへようこそ!

日本医療社会福祉協会
かながわ大会

交流会

全国の医療ソーシャルワーカーと交流を持ち
かながわの夜を大いに楽しみましょう!
皆さんの参加をお待ちしています。

開催日時
2019年 6月8日(土)
19時~21時

開催場所 ホテル 精養軒
(大会会場より徒歩10分)

参加費 7000円

<交流会プログラム>
*各都道府県対抗ゲーム
*食品は神奈川の名産!
*その他、収支検討中です!

申し込みは大会申し込みとご一緒にお願いたします。

交流会部会では、みなさんに素敵な時間を過ごしていただけるような企画を鋭意努力しております。

NEWS PAPER最終号に寄せて

全国大会史上最大規模?!ワクワクが止まりません。一歩先の取り組みを、明日へのちからへ!!(長谷川知美)

まだまだ(NP1号)先と思っていた全国大会(かながわ大会)が、まだ(NP5号)となり、もうすぐ(NP7号)、まもなく(NP10号)となりました。いよいよ「みらいにつながるキセキ」が始まります。ぜひ、全国のソーシャルワーカーの皆さまの積極的なご参加お待ちしております。(高瀬昌浩)

酒席で協力員の参加を表明して早1年半。広報部で全国大会と神奈川の魅力を伝えてきました。後は皆さんの参加を待っております!(櫻井優光)



広報部会

担当理事として参加。部会の要求レベルが高く、私もポスターでは苦勞しました。ここに誇れる仲間がいます。会場で会いましょう!(水野茂樹)

全国のSWとの交流を前に、広報活動を通して、県内の素晴らしい仲間と出会えました。とても得した気分です。(中村悦史)

NEWSPAPERも最終号を迎え、いよいよ大会が近づいてきたことを感じています。当日会場でみなさんとお会い出来ることを楽しみにお待ちしております!(鈴木克典)

【編集・発行】

かながわ全国大会みらいプロジェクト広報部 櫻井優光、鈴木克典、高瀬昌浩、中村悦史、長谷川知美、水野茂樹
(一社)神奈川県医療ソーシャルワーカー協会事務局 TEL/FAX 045-827-1217 E-mail: msw.kana@proof.ocn.ne.jp